

MusicCast SUB 100

ネットワークサブウーファー

musicCast

Advanced
Y.S.T

TWISTED
FLARE
PORT

取扱説明書

NS-NSW100

保証書別添付

ご使用前に本説明書の「安全上のご注意」(2 ページ)
を必ずお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことに
ありがとうございます。

- 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前
に本書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られ
るところに大切に保管してください。
- 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されてい
ることを必ずご確認ください。

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずよくお読みください。

必ずお守りください

ここに示した注意事項は、機器を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

「警告」「注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。

記号表示について

この機器や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

注意喚起を示す記号



禁止を示す記号



行為を指示する記号



- 点検や修理は、必ずお買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。
- 不適切な使用や改造によりお客様がけがをしたり機器が故障したりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 本製品は一般家庭向けの製品です。生命や高額財産などを扱うような高度な信頼性を要求される用途に使用しないでください。



警告

「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

電源 / 電源コード



禁止

電源コードが破損するようなことをしない。

- ストーブなどの熱器具に近づけない
- 無理に曲げたり、加工しない
- 傷つけない
- 重いものをのせない

芯線がむき出しのまま使用すると、感電や火災の原因になります。



禁止

落雷のおそれがあるときは、電源プラグやコードに触らない。

感電の原因になります。



必ず実行

電源はこの機器に表示している電源電圧で使用する。

誤って接続すると、火災、感電、または故障の原因になります。



必ず実行

電源プラグを定期的に確認し、ほこりが付着している場合はきれいに拭き取る。

火災または感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないでください。電源から完全に遮断されません。



必ず実行

雷が鳴り出したら、早めに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

火災や故障の原因になります。



必ず実行

長期間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

火災や故障の原因になります。

分解禁止



禁止

この機器を分解したり改造したりしない。

火災、感電、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。

水に注意



禁止

- この機器の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
- 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところや水がかかるところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、火災や感電、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。また、ぬれた手でこの機器を扱わない。

感電や故障の原因になります。

火に注意



禁止

この機器の近くで、火気を使用しない。

火災の原因になります。

設置



必ず実行

取扱説明書で指示された方法で設置する。

落下や転倒して、けがや破損の原因になります。



必ず実行

設置後は必ず安全性を確認する。定期的に安全点検を実施する。

落下や転倒して、けがをする可能性があります。

お手入れ



禁止

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスのエアゾールやスプレーを使用しない。

可燃性ガスが本機の内部に留まり、爆発や火災が発生するおそれがあります。

ワイヤレス機器



禁止

医療機器の近くなど電波の使用が制限された区域で使用しない。

この機器が発生する電波により、医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。



禁止

心臓ペースメーカーや除細動器の装着部分から15cm以内で使用しない。

この機器が発生する電波により、ペースメーカーや除細動器の動作に影響を与えるおそれがあります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 電源コード/プラグが傷んだ場合
- 機器から異常なにおいや煙が出た場合
- 機器の内部に異物が入った場合
- 使用中に音が出なくなった場合
- 機器に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。



必ず実行

この機器を落としたり、強い衝撃を与えないように注意する。落とすなどして破損したおそれのある場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



注意

「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

電源 / 電源コード



電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントを使用しない。

火災、感電、やけどの原因になります。



塩害や腐食性ガスが発生する場所、油煙や湯気の多い場所に設置しない。

故障の原因になります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

この機器を移動する前に、必ず電源スイッチを切り、接続ケーブルをすべて外す。

ケーブルを傷めたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積したりして火災ややけどの原因になります。



必ず実行

この機器を持ち運びする場合は、必ず2人以上で行う。

この機器を1人で無理に持ち上げると、腰を傷めるおそれがあります。また、この機器が落下してけがや破損の原因になります。

設置



禁止

不安定な場所や振動する場所に置かない。

この機器が落下や転倒して、けがや故障の原因になります。



禁止

大きな音量で長時間この機器を使用しない。

聴覚障害の原因になります。異常を感じた場合は、医師にご相談ください。



禁止

この機器の通風孔(放熱用スリット)をふさがない。

内部の温度上昇を防ぐため、この機器の背面には通風孔があります。機器内部に熱がこもり、火災や故障の原因になります。



必ず実行

ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行う。

聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になります。



禁止

この機器を設置する際は、

- ・ 布やテーブルクロスをかけない。
- ・ 天面以外を上にして設置しない。
- ・ 風通しの悪い狭いところへは押し込まない。

機器内部に熱がこもり、火災や故障の原因になります。本機の周囲に上 20cm、左右 20cm、背面 20cm 以上のスペースを確保してください。



必ず実行

お手入れをする前に、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電の原因になることがあります。

お手入れ



この機器のパネルのすき間に手や指を入れない。

けがの原因になります。



禁止

取り扱い



禁止

この機器のパネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

火災、感電、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

以下のことをしない。

- この機器の上に乗る。
- この機器の上に重いものを載せる。
- この機器を重ねて置く。
- ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加える。

けがをしたり、この機器が破損したりする原因になります。



禁止

接続されたケーブルを引っ張らない。

接続されたケーブルを引っ張ると、機器が転倒して破損したり、けがをしたりする原因になります。



禁止

音がひずんだ状態ではこの機器を使用しない。

機器が発熱し、火災の原因になることがあります。

注意

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、お守りいただく内容です。

電源 / 電源コード

この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。印(スタンバイ/オン)スイッチを切った状態(電源ランプが消えている)でも微電流が流れています。

設置

テレビやラジオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。この機器またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。

直射日光のある場所やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。この機器のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。

他の電気製品とはできるだけ離して設置してください。

この機器はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

無線機能を使用する場合は、金属製の壁や机、電子レンジ、他の無線ネットワーク機器の近くへの設置を避けてください。

遮蔽物があると通信可能距離が短くなる場合があります。

接続

外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。

説明に従って正しく取り扱わない場合、故障の原因となります。

取り扱い

この機器上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。この機器のパネルが変色/変質する原因になります。

機器の周囲温度が極端に変化して(機器の移動時や急激な冷暖房下など)、機器が結露しているおそれがある場合は、電源を入れずに数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。結露した状態で使用すると故障の原因になることがあります。

スピーカーユニットには触れないようにしてください。スピーカーユニットが破損する原因になります。

お手入れ

極端に温湿度が変化すると、この機器表面に水滴がつく(結露する)ことがあります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。

手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナーなどの薬剤、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になります。

本機のスピーカーには磁石が使われています。磁気の影響を受けるもの(ブラウン管テレビ、時計、キャッシュカード、フロッピーディスクなど)を本機の上やそばに置かないようにしてください。

お知らせ

製品に搭載されている機能とデータに関するお知らせ

- ・この製品は、日本国内専用です。
- ・この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。
- ・バスレフポートから空気が吹き出す場合がありますが、この機器の故障ではありません。特に、低音成分の多い音を出力する場合に起こります。

取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- ・この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。
- ・本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- ・ソフトウェアは改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品のリアパネルにある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。

- ・この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- ・万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。

本機の無線方式について

2.4 DS/OF 4

「2.4」: 2.4 GHz帯を使用する無線設備

「DS/OF」: 変調方式はDS-SSおよびOFDM方式

「4」: 想定干渉距離が40 m以内

■ ■ ■ :

全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

5.2GHz帯(W52)と5.3GHz帯(W53)は、電波法により屋内の使用に限られています。

本機は、電波法に基づく認証を受けた無線機器を搭載しています。

5GHz帯周波数範囲と対応チャネル

5.2GHz帯(W52): 5180 ~ 5240MHz
(36ch, 40ch, 44ch, 48ch)

5.3GHz帯(W53): 5260 ~ 5320MHz
(52ch, 56ch, 60ch, 64ch)

5.6GHz帯(W56): 5500 ~ 5700MHz
(100ch, 104ch, 108ch, 112ch, 116ch, 120ch, 124ch, 128ch, 132ch, 136ch, 140ch)

目次

本機の特長	7	オプション設定	18
本機でできること	7	ファームウェアを更新する	18
Advanced Yamaha		すべての設定を初期化する	
Active Servo Technology II	9	(ファクトリーリセット)	19
Twisted Flare Port	9		
各部の名称とはたらき	10	付録	19
背面パネル	10	STATUS インジケーター動作一覧表	19
上面パネル	11	故障かなと思ったら	20
準備する	12	商標	22
本機の置きかた	12	仕様	22
接続する	13		
ネットワークに接続する	14		
アナログ接続する	17		
音量バランスの調節	17		

はじめに

本機はMusicCast サラウンド/ステレオ対応機器とワイヤレスで接続できるネットワークサブウーファーです。

本説明書について

本説明書をお読みになる時は、次の項目にご注意ください。

- 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本説明書内で使用されているマーク



- 「**警告**」は、死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される情報が記載されています。



- 「**注意**」は、傷害を負う可能性が想定される情報が記載されています。

- 「**注意**」は、製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐための情報が記載されています。

- 「**お知らせ**」は、知っておくと便利な補足情報が記載されています。

本機の特長

本機でできること

専用アプリケーション「MusicCast CONTROLLER」をお手持ちのスマートフォン/タブレットにインストールすれば、MusicCast ネットワークに本機を追加でき、MusicCast サラウンド/ステレオ対応機器の低音域を簡単に再生できます。

● ワイヤレス接続による自由な設置性

面倒な外部機器とのケーブル接続から開放され、自由に置き場所を選べます。

● 常に最良の重低音を再生

組み合わせる MusicCast サラウンド/ステレオ対応機器に合わせて低域（クロスオーバー周波数）と、音量バランスなどを自動で調整し、自然な音のつながりを確保します。

● 電源、音量の連動

組み合わせた MusicCast サラウンド/ステレオ対応機器と本機の間で電源や音量が連動します。

● スムーズな重低音を再生する Twisted Flare Port 搭載

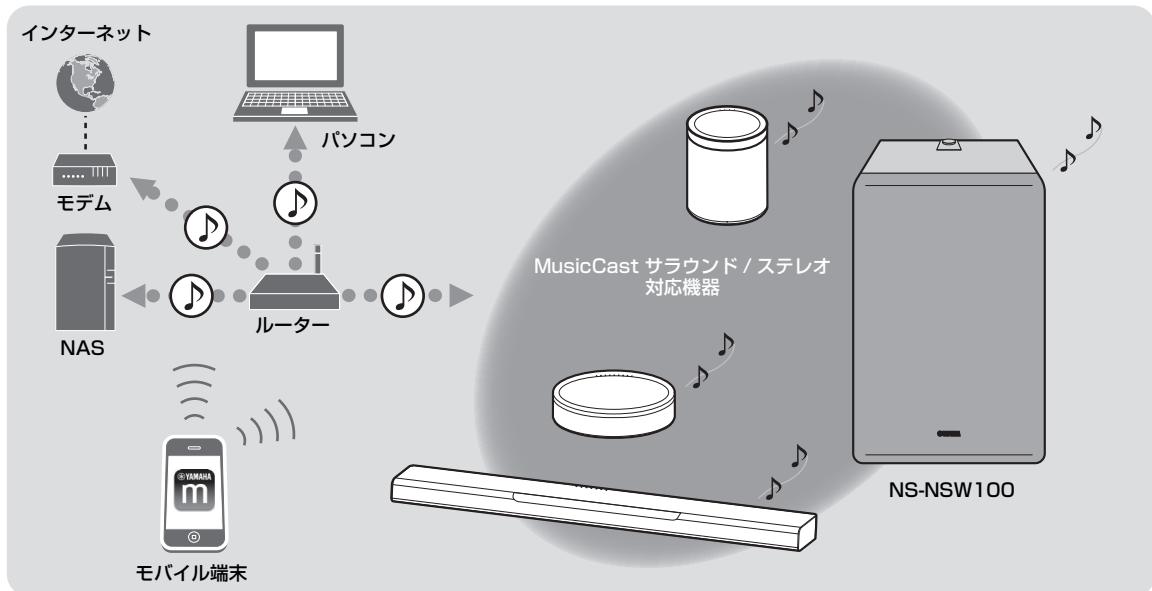
捻りながら広がるフレア形状のポートにより、ポート端部付近に生じる空気の渦を拡散させ、スムーズな空気の流れを作ります。これにより、本来の入力信号に含まれないノイズを抑え、クリアな低域再生を実現します。

便利なアプリでつかいこなす (MusicCast CONTROLLER)



「MusicCast CONTROLLER」は、MusicCast対応機器を操作する専用の無料アプリです。スマートフォンなどのモバイル機器をリモコンとして、MusicCast対応機器の選曲や設定が簡単にできます。

詳しくは App Store または Google Play™ で「MusicCast CONTROLLER」を検索してください。



MusicCastを使えば、複数の部屋に設置したMusicCast対応機器で音楽を共有できます。簡単な操作で家庭内のどこにいても、モバイル端末やメディアサーバー（パソコン/NAS）、インターネットラジオ、ストリーミングサービスの音楽を楽しめます。

MusicCastの詳細と対応機器については、次のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.yamaha.com/musicast/>

本機をネットワークに接続してお使いになるには、モバイル端末アプリ「MusicCast CONTROLLER」が必要です。

モバイル端末にMusicCast CONTROLLERをインストールしてください。

（→ P.15 「モバイル端末アプリ「MusicCast CONTROLLER」をダウンロードする」）

アドバンスド

ヤマハ

アクティブ

サーボ

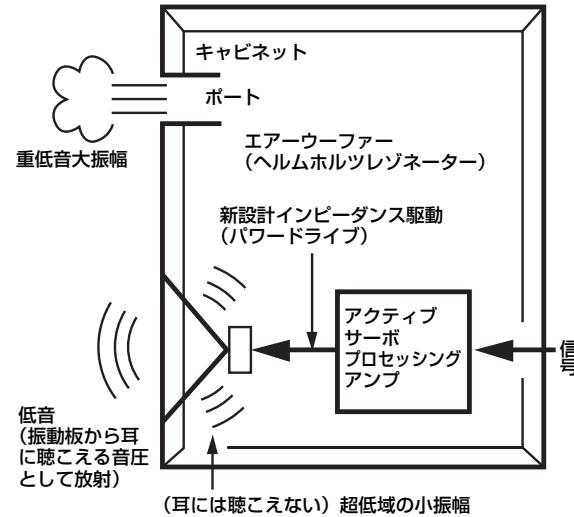
テクノロジー

Advanced Yamaha Active Servo Technology II

1988年、ヤマハは独自のYST (Yamaha Active Servo Technology) 方式により良質でパワフルな低音域の再生を可能にするスピーカーシステムを世に送り出しました。この方式はアンプとスピーカーをダイレクトに近い状態で電気的に接続することでアンプの動作を正確にスピーカーに伝え、かつスピーカーの動作をコントロールできます。

この技術は、アンプの負性駆動によりコントロールされたスピーカーユニット、そしてスピーカーキャビネットの容積とポートとの間で起こる空気共振を利用したもので、通常のバスレフ方式のスピーカーユニットよりも大きな共振エネルギー（エアウーファー）を生じさせるため、従来小さなキャビネットでは再生できなかったような低音が再生可能になりました。

ヤマハが新たに開発したAdvanced YST IIは、従来のYSTに数々の改良を加え、アンプとスピーカーの駆動をより理想的にコントロールするものです。アンプ側から見たスピーカーのインピーダンスは、周波数に応じて複雑に変動します。そこで、従来の負性駆動に定電流駆動を併用する新設計回路を開発しました。この回路の採用により、従来のAdvanced YSTにくらべ動作がより安定し、濁りのないクリアな低音再生が可能になりました。



Twisted Flare Port

今日のバスレフスピーカーには、ヘルムホルツ共鳴を利用し低音再生能力を向上させる方が用いられています。

しかしながら、このヘルムホルツ共鳴する周波数付近の低音再生時にはポートを通してスピーカーの内部と外部の空気が激しく出入りするため、ポート端部では空気の流れが乱れ、ノイズが発生する場合があります。

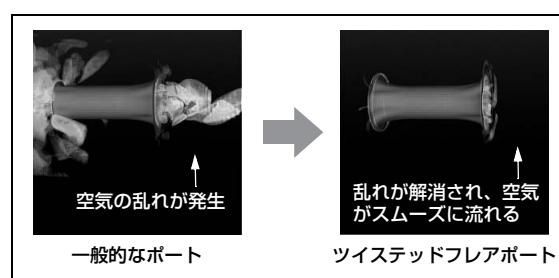
ポート、キャビネットはその寸法や形状によって決まった周波数で共鳴を起こします。

一方でポート端部の空気の流れの乱れは入力信号に含まれない広帯域の周波数成分が含まれます。

この広帯域の周波数成分の中でポート、キャビネットの共鳴周波数に一致した成分がそれらの音響共鳴を強く引き起こすため、このノイズが生じます。

ヤマハが開発したTwisted Flare Portは、ポート端に向かって広がり方を変え、更に「ひねり」を加えることでポート両端で生じる空気の流れの乱れを抑えてノイズの発生を防ぎます。

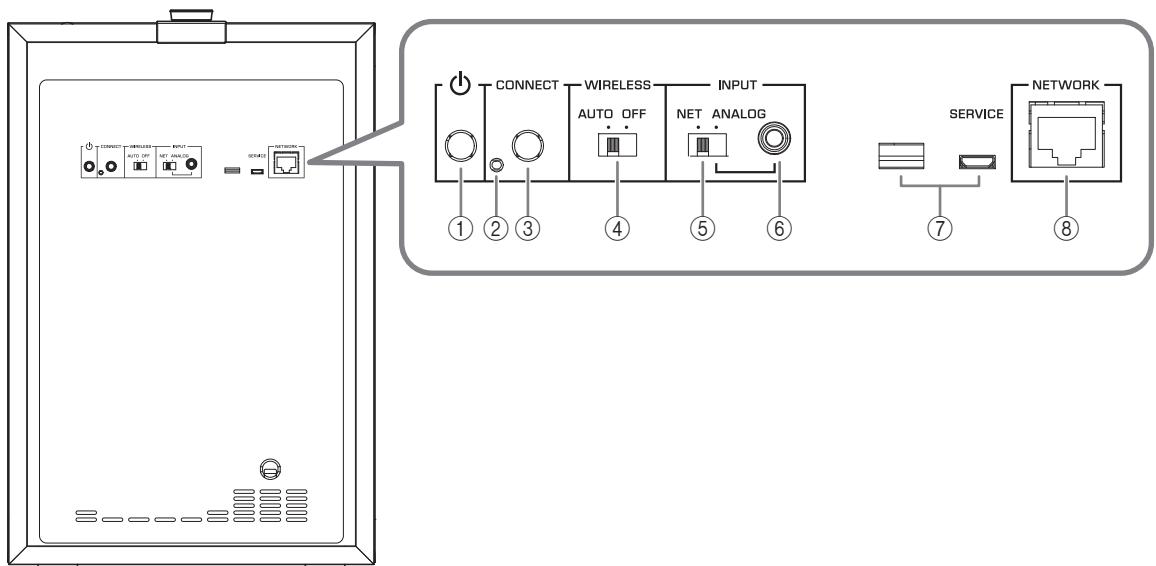
これにより、従来バスレフスピーカーの印象として言われていた、「濁った音」「風切り音がする」などの現象が大幅に減少し、クリアな低音の再生が可能となりました。



ノイズの原因となる、ポート端部の空気の乱れ

各部の名称とたらき

背面パネル



① ⏻ (STANDBY/ON)

本機の電源のオン / スタンバイを切り替えます。

② サービス用端子

サービス用のため、通常は使用しません。

③ CONNECT

以下の操作をするときに使用します。

- MusicCast ネットワークに本機を登録する → P.15
- フームウェアを更新する → P.18
- 設定を初期化する (ファクトリーリセット) → P.19

④ WIRELESS スイッチ

無線通信機能（無線 LAN）のオン / オフを切り替えます。

AUTO:

無線通信をオンにします。

OFF:

無線通信をオフにします。ネットワークに接続する場合は、有線接続してください。（→ P.14 「有線接続する場合」）

⑤ INPUT スイッチ

本機の接続方法を切り替えます。

NET:

ネットワークに接続する場合に選択します。

ANALOG:

ネットワークに接続せず、アンプなどの機器と直接接続する場合に選択します。

⑥ INPUT (ANALOG) 端子

INPUT スイッチを ANALOG にしたときに使用します。

アンプのサブウーファー端子またはライン出力端子（PRE OUT など）とケーブルで接続します。（→ P.14 「有線接続する場合」）

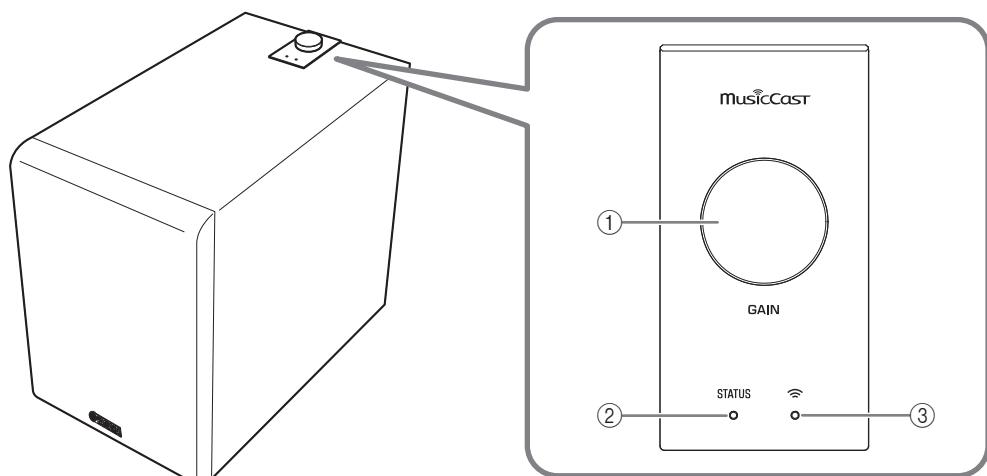
⑦ サービス用端子

サービス用のため、通常は使用しません。

⑧ NETWORK 端子

ネットワークケーブル（市販）を使って、ネットワークに有線接続します。

上面パネル



各部の名称とはたらき

① GAIN (ゲイン) ツマミ

本機の音量を調節します。再生する機器に合わせて音量を調節してください。(→ P.17 「音量バランスの調節」)

お知らせ

音量の変更操作中は、② STATUS インジケーターの色で音量設定が確認できます。

音量	STATUS インジケーターの色
最小値	青が点滅
小～中間	青～紫
中間～大	紫～赤
最大値	赤が点滅

② STATUS インジケーター

選択している入力ソースや本機の状態などをインジケーターの色と点灯 / 点滅で表示します。(→ P.19 「STATUS インジケーター動作一覧表」)

③ 無線 LAN インジケーター

無線ネットワーク接続の動作状況を点灯 / 点滅で確認できます。

オートパワースタンバイ

本機を操作しない状態や何も再生しない状態が20分間続くと、自動的にスタンバイ状態になります。

お知らせ

- オートパワースタンバイ 30秒前になると、STATUS インジケーターが点滅し始め、スタンバイ状態になると消灯します。
- MusicCast 接続時や、リアパネルの INPUT スイッチが ANALOG のときは、オートパワースタンバイは働きません。

ネットワークスタンバイ

電源がスタンバイのときでも、本機のネットワーク機能は有効です。

お知らせ

ネットワークスタンバイ時は、STATUS インジケーターが橙色に点灯します。

エコスタンバイモード

ネットワークが切断されて8時間経過すると、消費電力を低減するエコスタンバイモードになります。

お知らせ

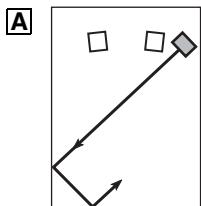
エコスタンバイモード時は、STATUS インジケーターが消灯します。



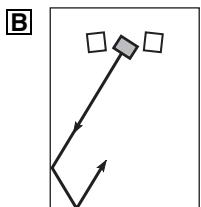
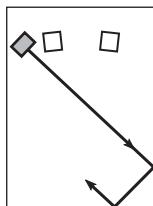
本製品は、先進的な省電力設計によりネットワークスタンバイ時の消費電力2W以下を実現しています。

本機の置きかた

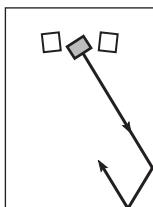
音楽信号の超低音成分は、波長が長いため、人間の耳ではあまり方向感覚がなく、無指向性に近い特性になります。したがって超低音域ではステレオ感も低減されるため、サブウーファーを使用することで超低音再生の効果を得られます。



または



または

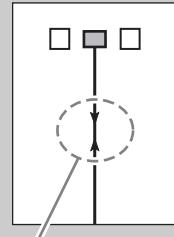


(■ : サブウーファー □ : フロントスピーカー)

注意

右図のように正面に向けて設置すると、壁で反射した音がスピーカーから出てきた音とぶつかり、打ち消し合ってしまい聞こえにくいためあります。これは部屋の中にできる定在波の影響です。

これを避けるためには、斜めに設置すると効果的です。(図A、B)



注意
定在波の影響で低音が聞こえにくいためあります。

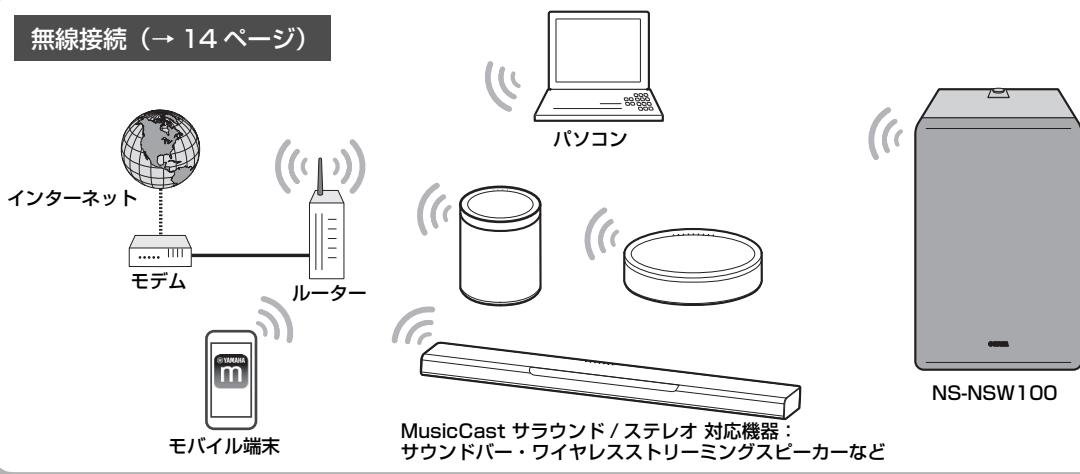
注意

- サブウーファーをブラウン管テレビの近くに設置すると画像の乱れや雑音が生じることがあります。そのような場合は、サブウーファーとテレビを影響が出ない位置まで本機と離してお使いください。液晶テレビやプラズマテレビには影響しません。
- 大音量で聴くと、家具や窓ガラスが共振したり、サブウーファー自体がビリついたりすることがあります。このような場合には、少し音量を下げてご使用ください。
共振防止には、吸音効果が高い厚手のカーテンなどの使用をおすすめします。また、設置位置を変えてみると、共振が起こりにくくなることもあります。
- 本機のスピーカーには磁石が使われています。磁気の影響を受けるもの(ブラウン管テレビ、時計、キャッシュカードなど)を本機の上やそばに置かないようにしてください。

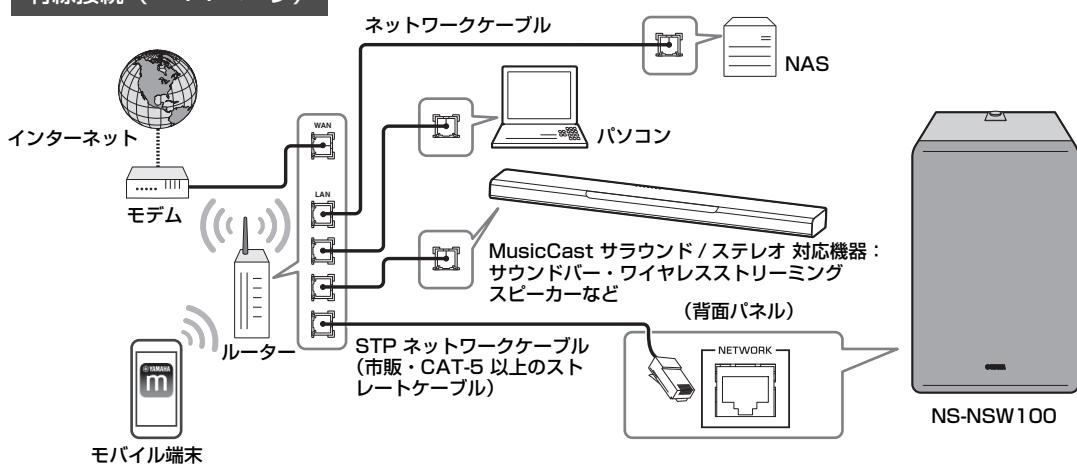
接続する

ネットワークに接続してお使いになる場合

無線接続 (→ 14 ページ)



有線接続 (→ 14 ページ)

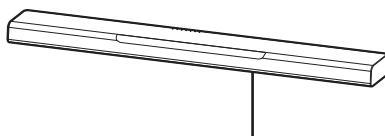


ネットワークに接続しないでお使いになる場合 (アナログ接続)

アナログ接続 (→ 17 ページ)

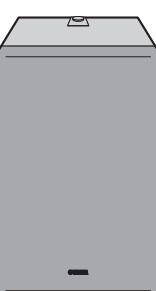
(接続例)

ANALOG (アナログ) 出力端子のある
サウンドバーなど



(背面パネル)

3.5 mm
モノラル
ミニプラグ



NS-NSW100

準備する

接続する

ネットワークに接続する

ネットワーク接続の準備

本機は有線と無線いずれの方法でもネットワーク接続ができます。お使いの環境に合わせて、接続方法を選んでください。

無線接続する場合

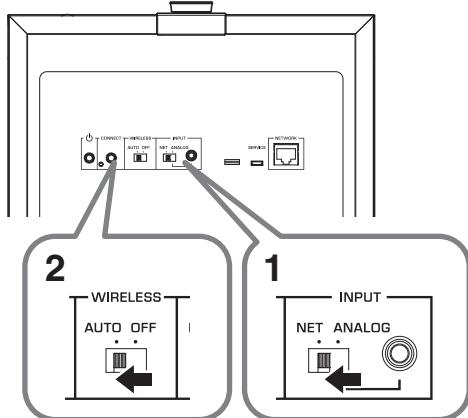
本機が無線通信できるように設定します。

- 背面パネルの INPUT スイッチを NET にする。
- 背面パネルの WIRELESS スイッチを AUTO にする。

注意

NETWORK 端子にネットワークケーブルを接続しないでください。ネットワークケーブルが接続されていると有線接続が優先され、無線接続ができません。

(背面パネル)



有線接続する場合

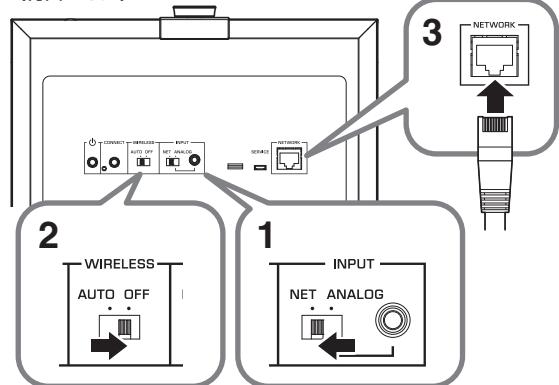
市販のSTPネットワークケーブル(CAT-5以上のストレートケーブル)を使って、本機をルーターに接続します。

- 背面パネルの INPUT スイッチを NET にする。
- 背面パネルの WIRELESS スイッチを OFF にする。
- NETWORK 端子にネットワークケーブルを接続する。

注意

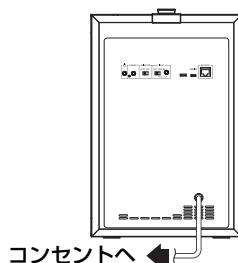
本機を有線接続にて音声再生する場合、組み合わせる MusicCast サラウンド / ステレオ対応機器(サウンドバー・ワイヤレスストリーミングスピーカーなど)はすべて有線 LAN 接続する必要があります。

(背面パネル)



本機の電源を入れる

- 電源コードのプラグをコンセントに差し込む。
(背面パネル)



お知らせ

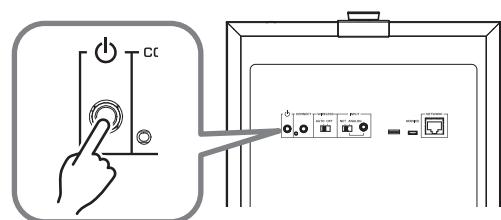
- ネットワークが起動中の場合、上面パネルの STATUS インジケーターが緑色で点滅します。
- 有線接続の場合、ルーターと接続されると、NETWORK 端子内側の LED が点滅します。

注意

- オーディオシステムの電源を入れるときは、本機の電源を最後に入れるようにしてください。

- 背面パネルの $\textcircled{1}$ (STANDBY/ON) を押して本機の電源を入れる。

(背面パネル)



モバイル端末アプリ「MusicCast CONTROLLER」をダウンロードする

モバイル端末にMusicCast CONTROLLERアプリをインストールして本機をネットワークに接続し、本機をMusicCast機器として登録します。

Apple StoreまたはGoogle Playで「MusicCast CONTROLLER」を検索して、インストールしてください。

お知らせ

- お使いになるモバイル端末がご家庭のルーターに接続されているか、確認してから操作してください。
- MusicCast CONTROLLERの画面、メニュー名称などは予告なく変更される場合があります。
- MusicCast CONTROLLERアプリに別のMusicCast機器をすでに登録してある場合、本機をアプリに追加するには「ルーム選択画面」で  (設定) をタップし、「新しい機器を登録する」を選んでください。

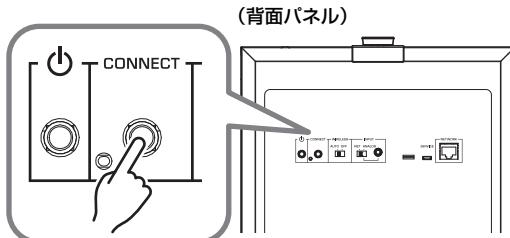
MusicCastネットワークに本機を登録する

「MusicCast CONTROLLER」を使って本機をMusicCastネットワークに登録し、同時に本機のネットワークの接続設定を行います。

お知らせ

ネットワークに無線接続する場合は、使用する無線LANルーター（アクセスポイント）のSSIDとセキュリティキーを準備してください。

1. モバイル機器で「MusicCast CONTROLLER」を起動し、「設定する」をタップする。
2. アプリの「設定」から「新しい機器を登録する」をタップする。
3. モバイル機器の画面に表示される案内にしたがって「MusicCast CONTROLLER」を操作し、本機背面パネルのCONNECTを5秒以上押す。



4. モバイル機器の画面に表示される案内にしたがって「MusicCast CONTROLLER」を操作し、ネットワークを設定する。

続いて本機をMusicCastネットワークの親機と組み合わせます。（→P.16「本機を親機と組み合わせる」）

お知らせ

無線接続でMusicCastネットワークに登録した場合、本機上面パネルの  無線LANインジケーターが点灯したらMusicCastネットワークへの登録は完了です。

本機のMusicCastネットワーク登録を解除するには

モバイル機器で「MusicCast CONTROLLER」を操作して登録を解除します。

お知らせ

登録を解除する前に本機を初期化した場合、「MusicCast CONTROLLER」の画面に本機が存在しないことを表すエラーが示されることがあります。

本機を親機と組み合わせる

本機をMusicCast ネットワークの親機（サウンドバーやワイヤレスストリーミングスピーカーなど）の子機として登録し、ネットワークサブウーファーとして動作させることで、より豊かな音声を楽しめます。



1. 本機と MusicCast サラウンド / ステレオ（親機）対応機器を、MusicCast CONTROLLER アプリの同じロケーションに登録する。（→ P.15 「MusicCast ネットワークに本機を登録する」）



2. モバイル機器で「MusicCast CONTROLLER」を起動し、 (設定する) をタップする。
3. 「MusicCast サラウンド / ステレオ」をタップする。
4. 本機と組み合わせる部屋（親機）を選ぶ。

5. アプリの画面に従って、本機をサブウーファー（子機）として登録する。

子機として登録が完了したら、アプリ画面で部屋（親機）を操作して音声を再生してください。

■ 親機との動作連動

本機をネットワークサブウーファーとして登録すると、部屋（親機）の操作に本機が連動します。

電源操作

部屋（親機）の操作に合わせて、本機の電源（Standby/ON）が連動します。

連動する設定：

- ・ 音量
- ・ ハイカットフィルター（クロスオーバー周波数）

お知らせ

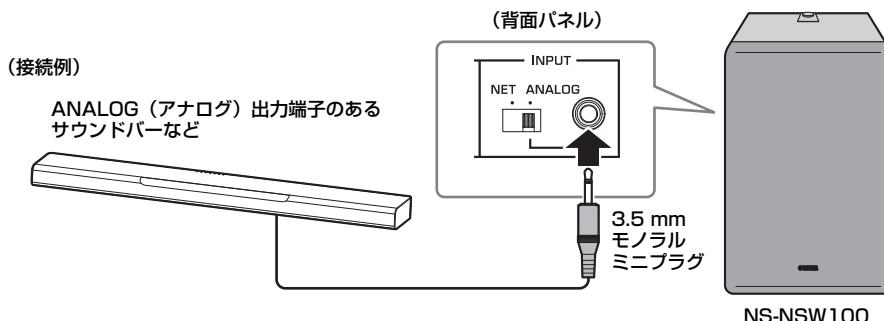
- 音声が途切れる場合は、アプリで部屋（親機）の設定画面にある「Link 制御」が以下のように選択されているか、ご確認ください。
 - 無線接続の場合：「速度優先」以外
 - 有線接続の場合：「速度優先」

■ 親機との組み合わせを解除するには

モバイル機器で「MusicCast CONTROLLER」を操作して登録を解除します。

アナログ接続する

ネットワークに接続せず、接続機器（サウンドバーなど）に直接接続したいときは、本機背面のANALOG端子を使用します。



1. 本機背面のANALOG端子と接続機器のサブウーファー出力端子またはライン出力端子(PRE OUTなど)を接続する。
2. 本機背面のINPUTスイッチをANALOGに切り替える。
3. 電源コードのプラグをコンセントに差し込む。
4. 背面パネルの△(STANDBY/ON)を押して本機の電源を入れる。

注意

- すべての接続が完了するまで、電源コードをコンセントに接続しないでください。
- 接続する機器（サウンドバーなど）によっては接続方法や端子名が本書の説明と異なることがありますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 製品出荷時、本機の音量設定は最小に設定されています。接続が完了したら、本機が適切な音量になるよう、調整してください。

音量バランスの調節

効果的な低音域再生をするため、組み合わせるスピーカーと本機の音が自然につながるように音量を調節できます。

■ ネットワーク接続時

ネットワーク接続している場合、本機の音量は組み合わせる親機に合わせて自動で調節されますが、おこのみにより、上面パネルのGAIN（ゲイン）ツマミで音量を微調節できます。

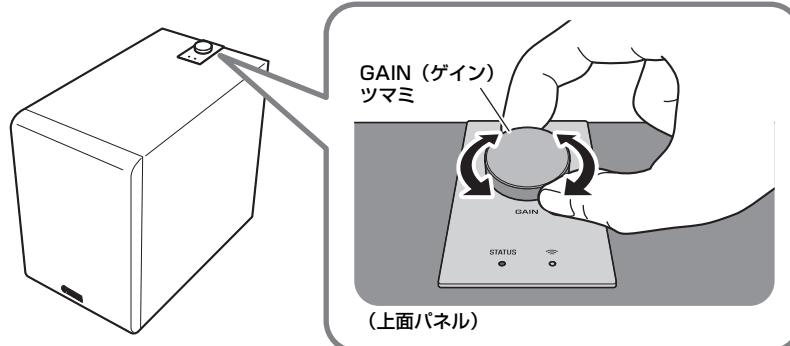
初期設定値：親機の設定による

■ アナログ接続時

上面パネルのGAIN（ゲイン）ツマミで本機の音量を調節します。

ハイカットフィルター周波数：160 Hz固定

初期設定値：MUTE



オプション設定

ファームウェアを更新する

本機がインターネットに接続されている場合、ネットワーク経由でファームウェアを更新できます。新しいファームウェアが提供されると、本機の電源オン時に、STATUS インジケーターが白色に点滅します。次の手順に従ってファームウェアを更新してください。

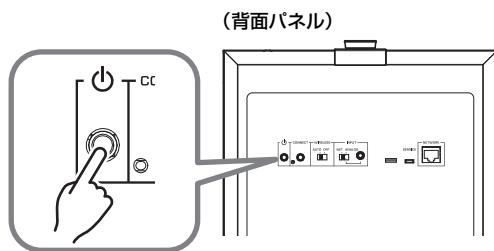
注意

更新中は以下の点にご注意ください。

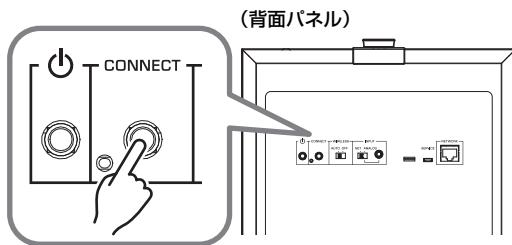
- 本機を操作しない
- 電源コードやネットワークケーブルを抜かない

ファームウェアの更新手順

1. 背面パネルの電源ボタン (STANDBY/ON) を押して本機をスタンバイ状態にする。



2. 背面パネルの CONNECT を 10 秒以上押す。



上面パネルの STATUS インジケーター、
無線 LAN インジケーターが点滅し、
ファームウェアの更新が始まります。

インジケーターが点灯（橙）に変わったら
ファームウェア更新は完了です。

お知らせ

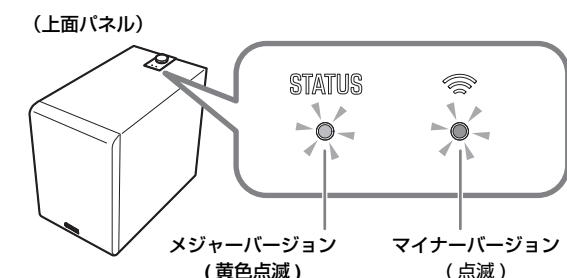
- ファームウェアの更新には 10 ~ 20 分かかります。
- インターネット回線の速度が十分に得られない場合や、無線ネットワークの接続状態によってはファームウェアの更新にかかる時間が長くなったり、失敗したりすることがあります。
- ファームウェアの更新に失敗した場合は、
STATUS インジケーターが赤色で点滅します。
しばらく待ってからもう一度操作を行ってください。

■ ファームウェアバージョンを確認する

本機にインストールされているファームウェアのバージョンは次の手順で表示できます。

1. 背面パネルの電源ボタン (STANDBY/ON) を押して本機をスタンバイ状態にする。

上面パネルの STATUS インジケーターと
無線 LAN インジケーターがファームウェアバージョンの数だけ点滅します。たとえば
ファームウェアバージョンが 1.3 の場合、
STATUS インジケーターが 1 回、無線 LAN インジケーターが 3 回点滅します。

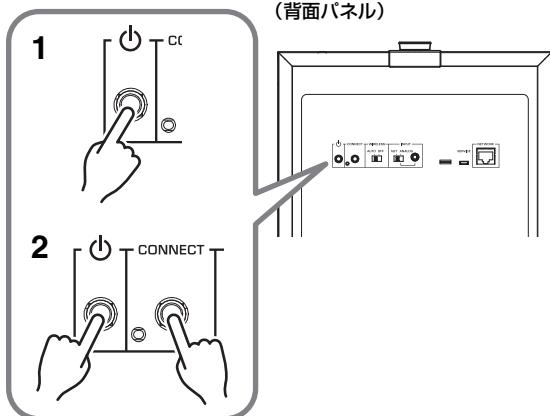


お知らせ

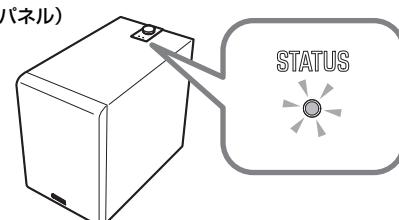
ファームウェアバージョンが 2.0 の場合、
STATUS インジケーターが 2 回点滅し、
無線 LAN インジケーターは消灯のままで
す。

3. もう 1 度 CONNECT を押して、スタンバイ状態に戻る。

すべての設定を初期化する（ファクトリーリセット）



1. 背面パネルの \odot (STANDBY/ON) を押して本機をスタンバイ状態にする。
2. CONNECT を押したまま \odot (STANDBY/ON) を 1 回押す。
3. STATUS インジケーターが点滅したら、CONNECT から指をはなす。



付録

STATUS インジケーター動作一覧表

本機の状態などをインジケーターの色と点灯 / 点滅で確認できます。

お知らせ

- STATUS インジケーターと 無線 LAN インジケーターを使って本機のファームウェアバージョンを確認できます。(\rightarrow P.18 「ファームウェアバージョンを確認する」)
- ファームウェアの更新中は、STATUS インジケーターと 無線 LAN インジケーターを使って進行状況を確認できます。(\rightarrow P.18 「ファームウェアの更新手順」)

電源オン時

インジケーター	状態	
緑	点灯	背面パネルの INPUT スイッチが NET に設定されています。
白	点灯	背面パネルの INPUT スイッチが ANALOG に設定されています。
緑	点滅	ネットワークの接続待機中です。
白	点滅	新しいファームウェアが提供されました。
緑 / 橙	交互に点滅	オートパワースタンバイに機能によって本機がスタンバイ状態になる直前です。(30 秒前から点滅します。)
白 / 橙		
橙	点灯	本機がネットワークスタンバイの状態です。
青 / 紫 / 赤	点灯	本機の音量を変更しています。 青 : 音量小 ~ 紫 : 中間 ~ 赤 : 音量大
青 / 赤	点滅	音量が最小または最大に設定されました。

スタンバイ時

インジケーター	状態	
橙	点灯	本機がネットワークスタンバイの状態です。
-	消灯	本機が電源オフまたはエコスタンバイの状態です。
橙	点滅	保護回路が作動しました。本機の電源をオフにし、電源プラグをコンセントから抜いてから、ヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

故障かなと思ったら

使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や下記の対処を行っても正常に動作しない場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから、お買上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策
電源が入らない。 電源を入れてもすぐに切れる。 正常に動作しない。	電源コードが正しく接続されていない。	電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。
本機が操作を受け付けない。	電気ショック（落雷、過渡の静電気など）や電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	本機背面の  (STANDBY/ON) を 10 秒以上押して本機を再起動してください。（それでも解決しない場合は、コンセントから電源コードを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。）
使用中に突然電源が切れる。	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待ち（約 1 時間程度）、本機の周囲に十分なスペースがあること、本機を布などで覆っていないことを確認して電源を入れなおしてください。
本機が正常に作動しない。	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	コンセントから電源コードを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。
音が出ない。 低音が出ない、または小さい。	低音域が少ないソースを再生している。	低音域が入っているソースを再生してください。
	定在波の影響を受けている。	本機の設置位置または設置角度を変えてみてください。
	アンプ側の設定により低音域の入力信号が無い。	アンプ側の設定を変更してください。
ネットワーク接続時		
	MusicCast CONTROLLER アプリまたは親機の音量が最小 (0) になっている。 あるいは、ヘッドホンが接続されている。	MusicCast CONTROLLER アプリ、または親機を操作して音量を上げてください。本機 GAIN ツマミでも手動で音量を微調整できます。
	ネットワーク接続が正しくされていない。	接続を確認してください。
	再生する機器が正しく選ばれていない。	MusicCast CONTROLLER アプリ、または親機を操作して再生したい入力ソースを選び直してください。
アナログ接続時		
	本機の音量が最小 (0) になっている。	本機 GAIN ツマミで音量を調節してください。
	接続が正しくされていない。または接続が不完全。	接続を確認してください。
ソースの再生が始まっても自動的に電源が入らない。	INPUT が ANALOG に設定されているため親機と動作連動していない。	手動で電源を入れてください。
	アンプ側の設定により低音域の入力信号が無い。	アンプ側の設定を変更してください。
	長時間ネットワーク接続が無い状態が続いたため、エコスタンバイモードになっている。	手動で電源を入れてください。
本機や周囲に設置している電子機器から雑音が出る。	デジタル機器や高周波機器が本機の近くに置かれている。	本機と該当機器の距離を離してください。

ネットワーク

症状	原因	対策
ネットワーク機能を使用できない。	ネットワーク情報 (IP アドレス) が正しく取得されていない。	ルーターの DHCP サーバー機能を有効にしてください。
無線 LAN ルーター (アクセスポイント) と接続できない。	無線 LAN ルーター (アクセスポイント) の MAC アドレスフィルターが有効になっている。	MAC アドレスフィルターが有効になっている場合は接続できません。無線 LAN ルーター (アクセスポイント) の設定を変更して接続してください。
無線 LAN ルーター (アクセスポイント) 経由でインターネットに接続できない。	無線 LAN ルーター (アクセスポイント) の電源が切れている。 本機と無線 LAN ルーター (アクセスポイント) との距離が離れすぎている。 本機と無線 LAN ルーター (アクセスポイント) の間に障害物がある。	無線 LAN ルーター (アクセスポイント) の電源を入れてください。 本機と無線 LAN ルーター (アクセスポイント) を近づけて設置してください。 本機と無線 LAN ルーター (アクセスポイント) の間に障害物がない場所に設置してください。
MusicCast CONTROLLER アプリで本機が検出されない。	本機とモバイル端末が同じネットワークに接続されていない。	ネットワーク接続やルーターの設定を確認し、同じネットワークに接続してください。
無線ネットワークが見つからない。	電磁波を発する機器 (電子レンジ、無線機器など) がそばにある。 無線 LAN ルーター (アクセスポイント) のファイアウォール設定により、ネットワークへのアクセスが制限されている。	無線接続で本機を使用するときは、電磁波を発生する機器の近くで使用しないでください。 無線 LAN ルーター (アクセスポイント) のファイアウォール設定をご確認ください。
MusicCast CONTROLLER アプリで接続の設定ができない。	モバイル端末が無線 LAN ルーター (アクセスポイント) に接続されていない。 マルチ SSID 対応ルーターを使用している。	モバイル端末を無線 LAN ルーターに接続した後、MusicCast CONTROLLER アプリで設定してください。 ルーターのネットワーク分離機能により、本機へのアクセスができなくなっている可能性があります。モバイル端末を接続する際は、本機へのアクセスが可能な SSID をお使いください (プライマリ SSID への接続をお試しください)。
ネットワーク経由によるファームウェアの更新に失敗した。	ネットワークの接続状態がよくない。	しばらく経ってから再度更新をお試しください。
親機と接続できない。	親機が MusicCast サラウンド / ステレオ対応機器ではない。 接続が正しくされていない。または接続が不完全。 すでに他の機器と組み合わせが登録されている。	MusicCast サラウンド / ステレオ対応機器または、アナログ接続できる機器をご用意ください。 本機を初期化後、親機が MusicCast サラウンド / ステレオ対応機器であることを確認し、再度接続してください。 登録されている機器との組み合わせを解除してから、再度登録の設定をしてください。

商標

Android™

Google Play™

AndroidおよびGoogle Playは、Google LLCの商標または登録商標です。



Wi-Fi CERTIFIED ロゴは Wi-Fi Alliance の認証マークです。

Wi-Fi、Wi-Fi CERTIFIED および WPA2 は Wi-Fi Alliance の登録商標または商標です。

MusicCast

MusicCast はヤマハ株式会社の商標です。



ヤマハエコラベルは、優れた環境性能を備えた製品として、ヤマハグループが認定するマークです。

ライセンス情報

本製品が使用するサードパーティソフトウェアについては、次で確認できます。

[http://\(本製品のIPアドレス*\)/licenses.html](http://(本製品のIPアドレス*)/licenses.html)

* 本製品のIPアドレスは MusicCast CONTROLLER で確認できます。

GPL/LGPLについて

本製品は、GPL/LGPL ライセンスが適用されたオープンソースソフトウェアのコードを一部に使用しています。

お客様は GPL/LGPL ライセンスの条件に従い、これらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があります。

GPL/LGPL ライセンスの適用を受けるソフトウェアの概要、ソースコードの入手、GPL/LGPL ライセンスの内容につきましては、次の弊社ウェブサイトをご覧ください。

<http://download.yamaha.com/sourcecodes/musiccast/>

仕様

■ 総合

型式	アドバンスド・ヤマハ・アクティブ・サーボ・テクノロジー II 方式
スピーカーユニット	20 cm コーン非防磁型
アンプ出力 (100 Hz, 5 Ω, 10 % THD)	130 W
再生周波数帯域	28 Hz ~ 300 Hz
電源 / 電圧	AC 100 V, 50/60 Hz
消費電力	60 W
入力端子	

NETWORK (有線)	Ethernet: RJ45 (100BASE-TX/10BASE-T)
ANALOG (有線)	3.5 mm Mini Jack (Mono)

入力感度	60 mV
入力インピーダンス	25 kΩ

待機時消費電力

エコスタンバイ	0.1 W 以下
ネットワークスタンバイ (有線)	1.3 W 以下
ネットワークスタンバイ (無線)	1.5 W 以下
寸法 (幅) × (高さ) × (奥行き)	252 mm × 383 mm × 418 mm
質量	12.6 kg

■ Wi-Fi

無線 LAN 規格	IEEE 802.11 a/b/g/n/ac*
	* 20MHz チャンネル帯域幅のみ
無線周波数帯域	2.4 GHz, 5 GHz
対応セキュリティー	WEP, WPA2-PSK (AES), Mixed Mode

※この取扱説明書では、発行時点の最新仕様で説明をしております。最新版の取扱説明書につきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードしてお読みいただけますようお願いいたします。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■お客様コミュニケーションセンター

オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル
(全国共通)  0570-011-808

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

<https://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハAV製品の修理、サービスパートに関するお問い合わせ

■ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通)  0570-012-808

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様
(06) 6649-9340

修理品お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17
ナンバード本ニッセイビル7F
FAX (06) 6649-9340

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

●保証期間

製品に添付されている保証書をご覧ください。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

●修理料金の仕組み

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。

技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代

修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料

製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

*品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

●スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

●摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を未永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。

摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

*このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コケくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触るとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

Yamaha Global Site
<https://www.yamaha.com/>

Yamaha Downloads
<http://download.yamaha.com/>

YAMAHA CORPORATION

10-1 Nakazawa-cho, Naka-ku, Hamamatsu, 430-8650 Japan

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中区中沢町10-1

Manual Development Group
© 2018 Yamaha Corporation

2018年 7月発行 IPEI-A0

VAG2650